

雌阿寒岳

1 概況

3 月 21 日のごく小規模な噴火後、しばらくは活発な状態でしたが、6 月中旬以降はやや活発な状態で推移していました。その後活動は次第に低下し、最近はやや活発な状態から静穏な状況に引き下げた

火山情報の発表状況（2006 年 8 月）

発表日時	情報番号	内容
25 日 14 時 00 分	火山観測情報第 34 号	火山活動の評価をやや活発な状況から静穏な状況に引き下げた

2 噴煙および火口の状況

赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動は静穏な状況で推移しており、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100～200m で推移しました。また、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは、火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

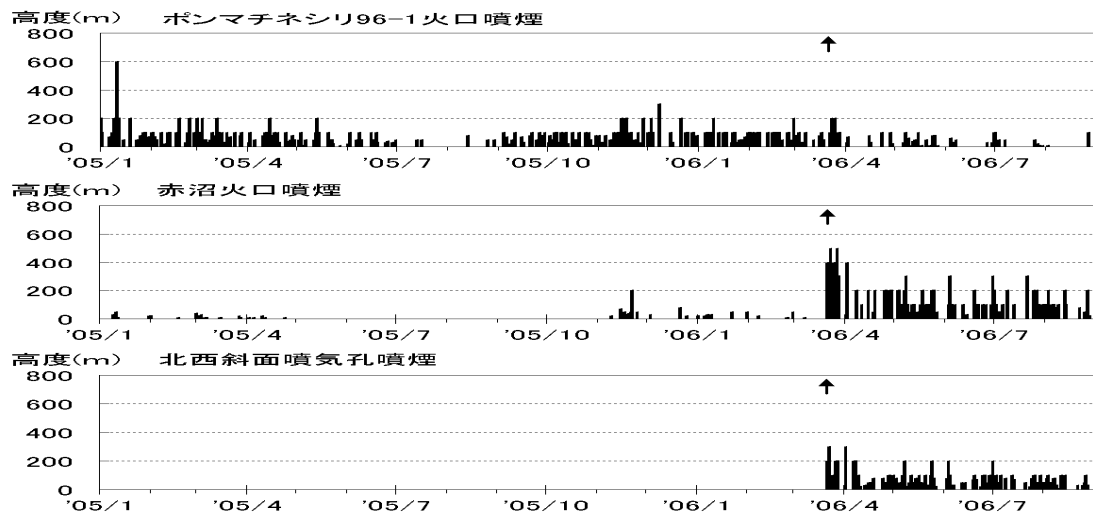


図 1 雌阿寒岳 最近の噴煙の状況（2005 年 1 月～2006 年 8 月）
↑印は赤沼火口及び北西斜面からの噴火

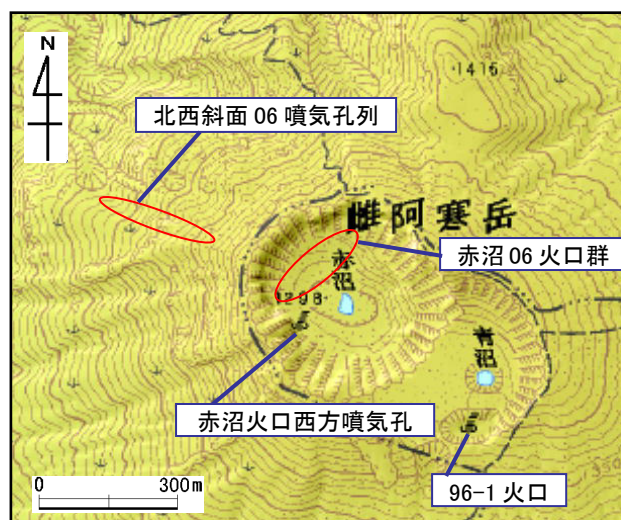


図 2 雌阿寒岳 山頂火口周辺図

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』および『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0～3 回と少ない状態で推移しました。震源は主にポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～2km 付近）に分布していると推定されます。

火山性微動は 5 月 10 日以降、観測されていません。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（B 点：図 2 の MEAB）

2005～2006 年	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
地震回数	18	22	20	44	22	1384	1290	128	986	34	34	23
微動回数	0	0	0	0	0	5	4	0	1	0	0	0

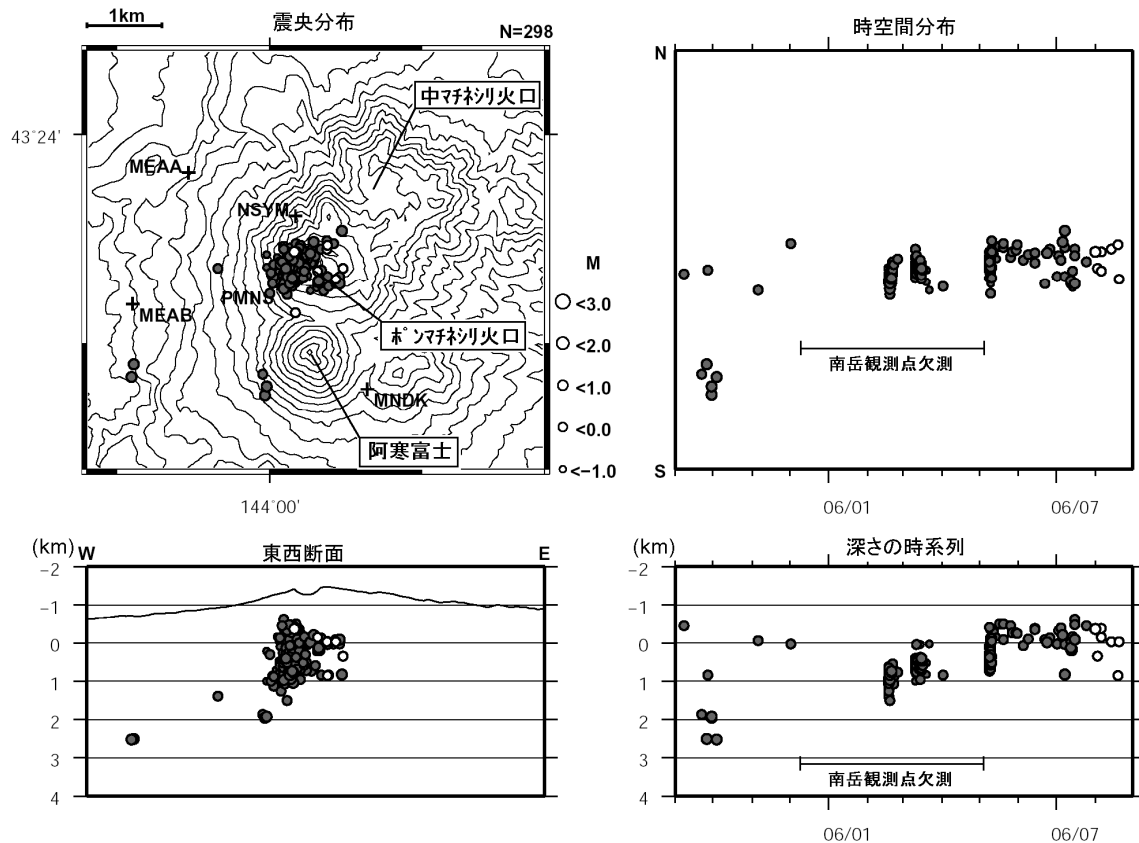


図 2 雌阿寒岳の震源分布図(2005 年 9 月～2006 年 8 月、+は地震観測点)

○印は今期間(2006 年 8 月)に求めた震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間(2005 年 9 月～2006 年 7 月)に求めた震源を示しています。

前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ 1～2km 付近)に分布しています。今期間に求めた震源もおおむねこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

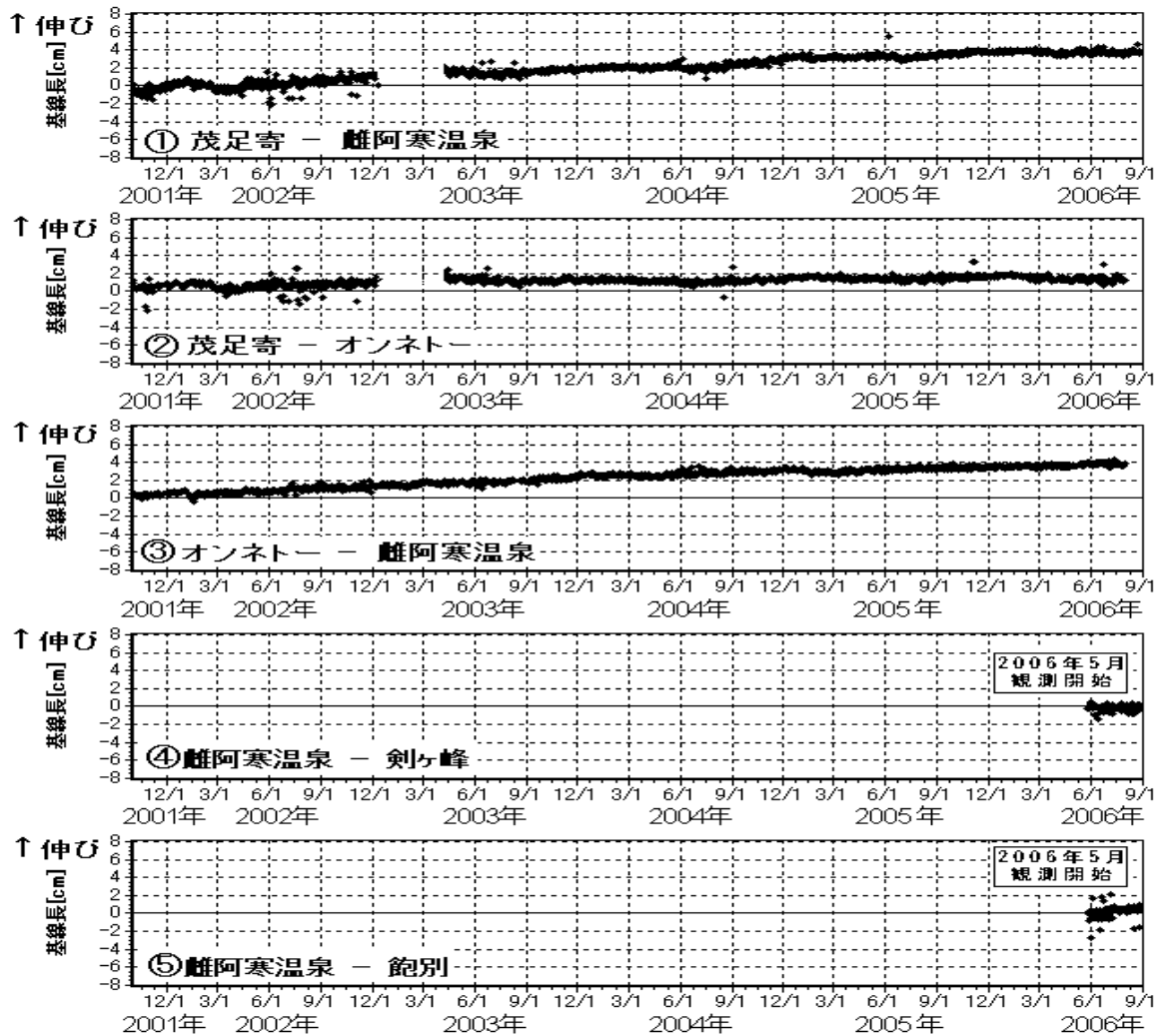


図3 雌阿寒岳基線長変化（2001年9月～2006年8月） グラフの空白部分は欠測

※「剣ヶ峰」「フレバツ岳北麓」「飽別」の連続観測点は、2006年5月に観測開始。

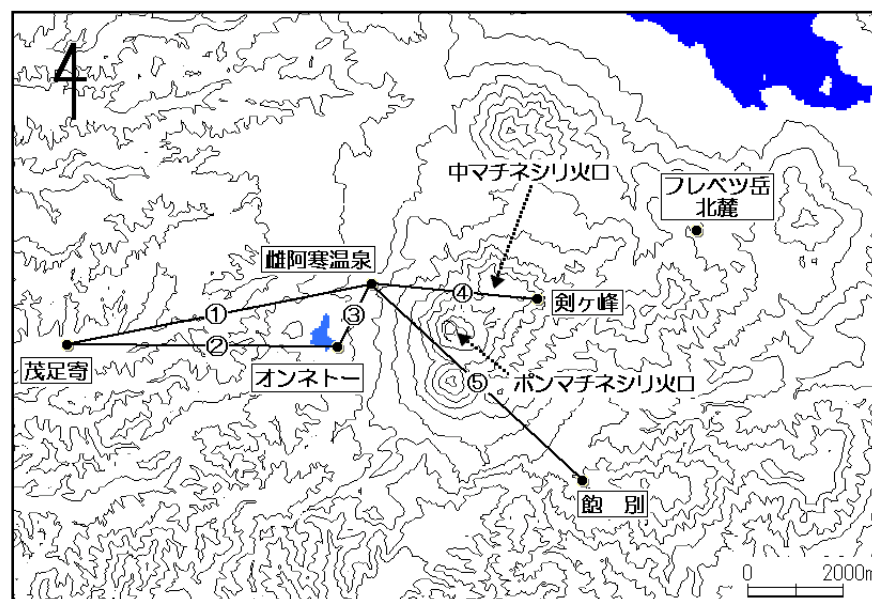


図4 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

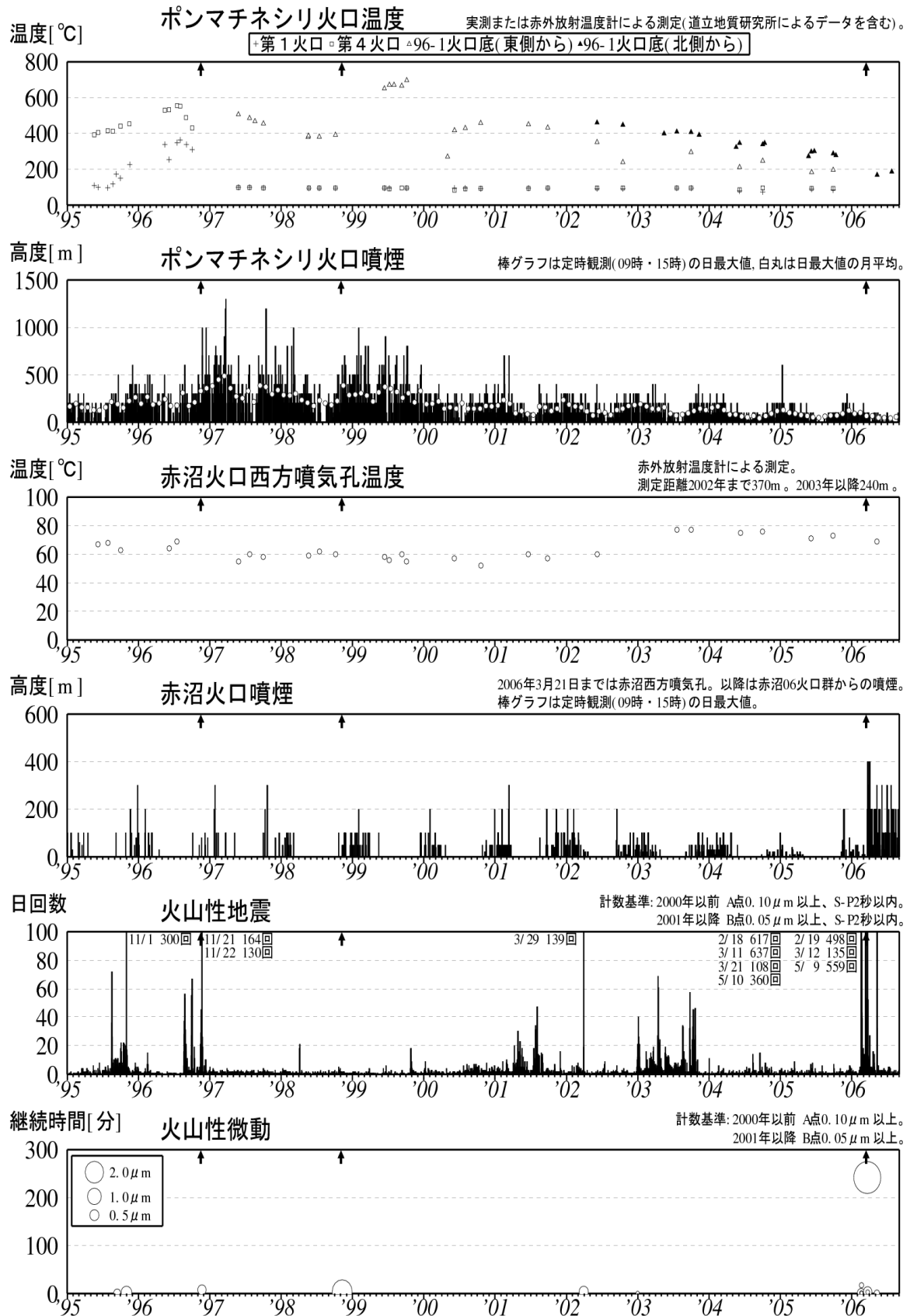


図5 雌阿寒岳 近年の火山活動経過図(1995年1月～2006年8月)

↑印は噴火

1996年、1998年：ポンマチネシリ96-1火口からの噴火

2006年：赤沼火口及び北西斜面からの噴火